

革新都政をつくる会 2016年総会

第1号議案

安倍政権が「暴走」を加速させ、この国の危機が深まるもとの、安倍政権と対峙し、政治を変える国民と野党のたたかいは、困難を克服して粘り強く進められています。

革新都政をつくる会は、この一翼を担い、都民が主人公の都政をめざして共同を広げ、都知事選をたたかい、都政転換をめざす活動を推進してきました。

今次総会では、歴史的な参院選、都知事選後の新たな情勢のもとで

- ① 2016年都知事選のたたかいの総括
- ② 都知事選から4か月の小池都政
- ③ 都民要求実現、都民が主人公の都政をめざす活動

について討議し、活動方針と体制、財政の確立をはかります。

I 2016年東京都知事選挙総括

(1) はじめに

舛添要一前知事が、「政治とカネ」の問題によって、都民の批判を浴び、任期途中でその職を投げだしたことによって急きょおこなわれた今次都知事選挙は、国政での4野党共同と市民の共闘の前進をふまえ、都知事選挙においても4野党と市民が共同してたたかう歴史的な都知事選挙となりました。そして、この野党と市民の共同・連帯に脅威を感じ、何が何でも反安倍暴走政治を掲げる野党統一候補の勝利を阻止しようとする改憲・反動支配層の卑劣な策動との熾烈なたたかいとなりました。

選挙戦は、参議院選挙投票日（7月11日）からわずか4日後に告示日（7月14日）を迎えるという厳しい日程のもとでのたたかいとなりました。革新都政をつくる会は、鳥越俊太郎候補の必勝をめざして総力をあげてたたかい、鳥越候補は野党共同の統一候補として大健闘しましたが、残念ながら勝利できませんでした。しかし「都民が主人公」の都政、都民要求実現をめざす市民と野党の共同のたたかいの前進につながるたたかいとなりました。

共同のたたかいをさらに発展させるために、今次都知事選挙の総括をおこない課題を明らかにすることも求められます。

4野党と市民の共同のたたかいに結集され、鳥越候補勝利をめざして奮闘された皆さんに心より敬意を表します。

(2) 選挙戦の結果について

選挙戦は自民党候補が分裂し、33年ぶりに実現した野党統一・鳥越候補による都政転換のチャンスの都知事選に都民・有権者の関心が高まり、投票率は59.73%と過去4番目の高さとなりました。

7月31日投開票の結果、鳥越俊太郎候補は、134万6103票（得票率20.56%）を獲得しましたが、小池百合子候補が291万2628票（得票率44.49%）を獲得して当選し、初の

女性知事となりました。自民・公明が推した増田寛也候補は、179万3453票（得票率27.40%）でした。

鳥越候補は、出口調査では無党派層では20%台、60歳代以上では20%を超えましたが、10～40歳代では、20%以下でした。一方小池候補は、無党派層の過半数を取り込み、自民党支持層の半数近い支持と野党支持層からも支持を得て当選しました。

（3）情勢の特徴とたたかいの経過

選挙戦をめぐる情勢の最大の特徴は、安倍自公政権の暴走と市民が押し上げた4野党共闘が対決する参議院選挙のたたかいが発展する情勢の中でたたかわれたことです。

○ 今回の都知事選挙は、税金を湯水のように使った舛添前知事の公私混同に対する都民の怒りと批判の世論が、舛添前知事と「製造責任者」である自民党・公明党を突き上げ、舛添氏を辞職に追い込んだ結果実施されました。同時に、歴史の岐路をめぐる激戦が展開された参議院選挙において、11の1人区で市民と4野党共闘の候補が勝利をかちとるといふ歴史的な体験を通じて、首都東京において、1983年革新統一以来となる野党（日本共産党、民進党、生活の党、社民党、生活者ネット推薦）と広範な市民団体、個人の共同が実現しました。

○ 鳥越俊太郎氏は参議院選挙の結果、改憲勢力が参議院でも三分の二の議席を獲得したことに危機感をもち、「いま自分が東京から平和の声をあげることが大事だ」と立候補を決意しました。

同時に、鳥越氏は「参院選で一定の成果をあげた野党共闘の流れを今後の政治の中にしっかと固定する」「都知事選も参院選の流れで戦うべきだ」との思いで立候補を決意しました。

この決意は、参議院選挙の投開票日から4日後に都知事選挙本番に突入するという短期日にもかかわらず、東京と日本を変える政治的共感となって広がり、野党共同による候補者擁立、選挙体制構築、市民連絡会の発足など幅広い市民、団体、政党の取り組みが急速に進みました。この間2回の都知事選をたたかった宇都宮健児氏は「保守分裂の千載一遇の機会を生かす」ために立候補を取り下げることが表明しました。

○ 野党統一候補の擁立への期待が高まる中で、告示2日前の立候補にもかかわらず、鳥越候補が立候補にあたって掲げた「納税者意識を都政に」「3つのよしの東京」そして安倍政権に対決する姿勢は、広範な都民・有権者に急速に浸透し、無党派層などからも支持を得る条件と可能性を広げました。これに危機感を持った支配勢力をあげてマスメディアを使った異常なネガティブキャンペーンが大規模に展開されました。特に「週刊文春」「週刊新潮」の卑劣な選挙妨害、謀略的攻撃は拡散され、卑劣な攻撃をうち破るために奮闘しましたが、都民・有権者、支持者に否定的影響を与えました。

一方、小池候補は自民党籍を残したまま、「自民党推薦候補と対決する」反自民のポーズで無党派層を引き付け、改憲推進、核武装宣言の主張を隠し、「自民とたたかう女性候補」のイメージ戦略を突き出した選挙戦をメディアを使ってくりひろげました。また、保

育園待機児解消、築地市場移転問題、五輪開催費問題などで都民を惹きつける施策を打ち上げて、「非自民の改革派」として野党支持層を取り込み、「ポイント・グリーン」作戦を展開し、広い層の有権者の支持を集めました。増田候補は安倍政権との連携を強調し、自民党主導の組織戦を展開しました。

この中で、草の根から都政要求と結んで鳥越候補を押し出す全駅頭宣伝、女性勝手連の立ち上がりと宣伝、「お帰りなさい」宣伝など大規模な宣伝と電話作戦による対話・支持拡大活動をすすめ、鳥越支持の輪は急速にひろがりましたが、小池候補持ち上げのメディア戦略をうち破る対話・支持拡大、都民宣伝の規模とスピードが届きませんでした。

（４）市民と野党共同、協力・共同で広がったたたかい

都知事選挙で野党と市民の共同は、4野党に加え生活者ネット、新社会党、緑の党に広がりました。同時に都段階の市民の共同は、革新都政をつくる会、市民連合、総がかり行動実行委員会、ママの会、弁護士6団体、立憲ネット、市民センター、勝手連が「鳥越支援市民連合」をつくり、鳥越候補勝利目指して奮闘しました。また労働分野でも、連合傘下の自治労東京、都高教などの労働組合にも鳥越候補支持や推薦の動きが広がりました。

選挙戦を通じて鳥越候補と「市民と野党共同」は、平和と憲法を守り、安倍暴走政治をストップさせるという旗を掲げて大義あるたたかいを貫きました。都政と国政の転換を掲げた今次都知事選は、今後のたたかいの方向を示すものです。

協力・共同の努力は、区市町村段階の各地域で追求されました。すべての地域で選挙共闘の組織はできませんでしたが、多様な形で都知事選挙をたたかい、その後も多面的に発展し、今後に生かすべき経験と教訓がたくさん生まれました。この共同をさらに発展させ、安倍暴走政治と対決し総選挙で勝利していくことを広範な人々が求めています。

同時に、国政政策だけでなく都政政策でも政党間の一致点を広げたことは重要です。今後の都民要求実現を切り開く流れとしていく一歩となりました。

（５）革新都政をつくる会のたたかい

「都民の声」を聞き「みんなに都政を取り戻す」—鳥越候補が掲げた都政転換の旗印に多くの都民の支持と共感が広がりました。

そして、政策を発展させ「住んでよし、働いてよし、学んでよし、環境によし—四つのよしの東京」と「三つのゼロ（保育園の待機児ゼロ、特養ホームの待機者ゼロ、原発ゼロ）」「大規模開発優先の都政から都民の暮らし優先の都政への転換」さらに「東京非核都市宣言」の旗を掲げました。

鳥越候補の決意と掲げる政策は、「クリーンな知事で都政刷新！憲法、暮らし、平和を大切にす都政」の実現を求める「革新都政をつくる会」の方向と重なるものです。

革新都政をつくる会は、舛添前知事辞任後、代表世話人会を重ね都知事選と参議院選挙をめぐる情勢と都知事選対応を協議するとともに、都政パンフ「2016年都知事選挙、私たちの提案」を緊急に20万部作成し、都政政策準備と団体・地域の選挙体制の確立をす

すめました。

7月12日、鳥越氏の4野党共同による立候補表明を受けて、革新都政をつくる会は直ちに代表世話人会を開催して推薦を決定、13日に団体地域代表者会議を開催して鳥越氏の都政公約（選挙公報）を確認し、鳥越氏の推薦と勝利をめざして総力を挙げてたたかう方針を決定しました。そして、19日に浅草公会堂（1200人）を一杯にする都知事選勝利決起集会を開催して鳥越候補の決意に応じて、都知事選勝利を勝ち取る意思統一を行いました。これは、選挙戦を通じて唯一ともいべきたたかう勢力の意思統一の場となりました。そして、決起集会での鳥越候補のあいさつをDVDにして団体・地域で集会を一斉に開催し、全都で選挙体制の構築をすすめました。

革新都政をつくる会は、鳥越候補の選挙公約を訴え、「法定ビラ」を配布し、「（紺色）プラカード」を掲げ、全都で共同を広げて奮闘しました。また、選挙本番での選挙活動が制限され、十分な事前準備ができなかったなかで、駅頭・街頭・地域で「会」が作成した都政要求プラスター、横断幕を掲げ、メガホン宣伝を厳しい暑さのなかで連日展開しました。そして、選挙中盤には選挙戦の争点と小池候補・増田両候補の危険な問題点を明らかにして鳥越候補の押し上げをはかる「都民がつくる革新都政」号外550万枚を全戸配布するとともに、対話・支持拡大、電話作戦を展開し、鳥越候補への支持を都民の中に広げました。

市民と野党の共闘、革新都政をつくる会の構成団体・地域組織と都民の行動も草の根から前進しました。各地で市民が共闘を呼びかけ、超党派での街頭宣伝、集会が行われました。

革新都政をつくる会に結集する女性、保育、医療、障害者、教育、労働、業者などの各分野、さらには革新都政をつくる会も参画した「鳥越市民連絡会」による幅広い共同のたたかいが短期間に急速に広がり、全都に鳥越候補支持を訴え奮闘しました。

（6）選挙体制と主体的力量について

突然の都知事選になったために、極めて短期間での候補者擁立と強い選挙体制の確立が求められました。

舛添知事辞職から告示までの期間が限られ、さらに、その間に参議院選挙があり、そのさなかに野党統一候補の擁立をすすめ、候補者決定が告示直前になるというかつてない短期日のなかで、野党間の共闘、広範な市民との共同をすすめ、広げるために全力で奮闘しました。しかし、取り組みを徹底し、運動化する上での限界は避けられず、1+1が3にも4にもなるという統一戦線の本来の力を発揮することができませんでした。

何より選挙戦の要となる選挙体制は、緊急で短期日の選挙戦となったために、必要な課題に多くの制約が伴い、選挙情勢にふさわしい戦略と活動方針を日々現場に提起する陣営としての強固な「たたかひの共同のテーブル」の構築ができず、地域組織の確立のための時間が足りませんでした。また、卑劣な週刊誌の攻撃に対して、毅然とした、都民にわかりやすい反撃が弱かったことも支持の後退につながりました。

共同を深化させ、その共同の力を強力にしていくために、候補者決定にあたってのプロセス、政策展開、謀略的な報道への反撃など、次に生かす課題を明らかにし、巨大な都知事選をたたかう強固な都と区市町村の選挙体制・組織の確立と情勢分析、基本戦略、マス

コミ・メディア対策、政策と論戦、現場への情報伝達、宣伝、対話・支持拡大等への対応について検証することが求められます。

また、都知事選挙で勝利するために必要な有権者の投票過半数の獲得をめざす主体的取り組みの到達についても検証することが求められます。革新都政をつくる会の各構成団体は、それぞれ対話・支持拡大目標をたて、全国組織の支援も受けて奮闘しましたが、「会」としての責任目標を明確にできず、追求も不十分でした。

同時に、SNS・インターネットを使った選挙戦は不可欠であったにもかかわらず、組織的で効果的な取り組みができませんでした。都知事選の争点、メディアの反鳥越攻撃への反撃、無党派層・青年層への取り組みなど有効なツールを活用できなかったことは大きな課題となりました。

（ 7 ） 今後のたたかいと課題

4 野党と市民の共同、その推進力としての革新都政をつくる会が各分野で共同をひろげてたたかった都知事選挙は、今後の都政転換と政治を変える方向を指し示すものとなりました。

野党共闘と市民の共同が首都東京で実現したことへの都民の期待は大きく、選挙後直ちに首長選挙や衆院選挙などへ向けて新たなたたかいへの共同のとりくみが都内各地で多彩に展開されています。その発展のために、本格的な共闘へ今次都知事選の教訓を生かすことが重要です。

住民の願いに応える「大義の旗」を掲げ、野党と市民が「本気の共闘」に取り組むなら、安倍自公政権の激しい攻撃をはねかえし勝利できることは、10月の新潟県知事選でも示されています。

都政を動かしているのは都民世論と市民の運動です。

今後、小池新知事には、都知事選での都民世論を反映した公約の実現はもとより、何より切実な都民の暮らし、いのちをまもる切実な要求の実現を求めます。

また、税金の使い方、クリーンな都政の実行、選挙戦を通じて明らかとなった小池氏の政治資金疑惑の糾明、さらに、安倍政権がすすめる憲法改悪、戦争をする国づくりの動きに対する憲法を守る都知事の在り方が問われます。

私たち革新都政をつくる会は、今回の都知事選挙で示された野党と市民の共闘をいっそう発展させ、憲法をまもり、暮らし、福祉を最優先にする都政の実現に全力をつくすとともに、一日も早い、都民が主人公の都政への実現のために、新たなたたかいのスタートをきることを表明するものです。